



## エグゼクティブブリーフ

# 自動車OEMとティア1のサプライヤが モダンERPに投資すべき理由

モダンERP（近代的なエンタープライズ・リソース・プランニング）システムは、（貴社の競合他社を含め）世界中の企業の業務改革を支援しています。自動車製造業とサプライヤは、統合されたりリアルタイムベースでより良いビジネスプロセスを管理するために設計されたERPを採用しています。

技術的に高度なERPシステムに投資することは、貴社の事業運営、効率性、インテリジェンス、生産性への投資です。モダンERPシステムが持つあらゆる機能は、結果的にこうした分野の改善に結び付き、組織の生産性と競争力を向上させ、より適切に顧客ニーズに対応することを可能にします。

## モダンERPとは？

ERPシステムの起源は、ヘンリー・フォードが自動車業界に組立ラインを導入したのと同じ頃、100年以上前にさかのぼります。経済発注量（EOQ）として知られるこのシステムは、在庫コストを最適化するための意思決定ツールとして機能しました。これがやがて、計画、スケジューリング、在庫管理を含む製造工程を管理するシステムである資材所要量計画（MRP）へと変化していきました。そして、財務や顧客からの注文を管理するモジュールなど、さまざまな機能が追加されていきました。しかし、ソリューションが大きくなるにつれ、扱いにくく、複雑で、一般のビジネスユーザーには管理しにくいものになりました。また、アップグレードも難しくなり、その進歩は止まりました。

昔も今も、ERPソリューションは、調達から工場の運営まで、日々のビジネス活動をエンド・ツー・エンドでつなぐ重要な役割を担っています。ERPシステムはまた、退屈なまたは手動タスクを自動化し、SKUの長いリストから現在の在庫に、データをソートして追跡することができます。ERPシステムの目標は、エンジニアリングと設計から、サブアセンブリのメーカー間のコラボレーション、小部品の在庫、ディーラーへの出荷まで、自動車のライフサイクル全体を通してビジネスの生産性を向上させることです。

今日のERPシステムは、拡張アナリティクス、モノのインターネット（IoT）、さらには倉庫内のロボットや自律走行車との統合など、その高度な機能を反映したデジタル・オペレーション・プラットフォーム（DOP）と呼ぶほうがふさわしいかもしれません。ERPシステムは、デジタル・ビジネス・ニーズを満たすために絶えず進化しており、これらのソリューションがクラウドで展開された場合、さらに多くの利点を提供します。たとえば、膨大な量のデータを保存し、業界の変化に対応するための迅速な拡張性を獲得することができます。

人工知能（AI）、機械学習（ML）、モノのインターネット（IoT）などの新たなデジタル技術は、ERPソリューションが組織にもたらす効果を高めています。AIを活用した分析機能が組み込まれた最新のERPシステムでは、企業全体で起きていることをリアルタイムで把握でき、利用可能なリソース、資産のパフォーマンス、売上予測、収益予測など、影響を及ぼす要因や起こりうる結果を掘り下げることが可能です。

## ERPのモダナイゼーションを遅らせている理由

ビジネスリーダーがERPシステムのモダナイゼーション（近代化）やクラウド化を躊躇してしまう誤解がいくつかあります。クラウドは安全ではない、高価である、障害が頻繁に発生する、クラウドベースのERPは一長一短である、などの考え方がその例です。また、一部のビジネスリーダーはERPの実装は、顧客にサービスを提供し、財務目標を達成することを妨害し、大規模な混乱を引き起こすことを懸念している可能性があります。

ERPのアップグレードは大規模な事業です。それは疑う余地がありません。しかし、実績のあるチェンジマネジメント戦略、導入ツール、すぐに使える業界固有の機能により、リスクを軽減することができます。また、プロジェクトの範囲を管理し、適切なチームを編成してプロセスを管理し、経営陣の支持を得ることで、優先すべき目標に焦点を当てながらタスクを予定通りに進めることができます。

## 今日の自動車産業でより多くを達成するために

自動車業界の企業にとって、最新のERPソリューションのメリットは特に重要です。自動車がよりハイテクになり、ハイパーコネクテッドになり、ユーザーエクスペリエンスを重視するようになると、メーカーやサプライヤは製品のイノベーションに歩調を合わせなければなりません。新しいサプライヤの開拓やパートナーシップの構築、地理的な在庫ハブの設置など、現在の市場では柔軟性の高いERPソリューションが求められているのです。**マイクロチップの深刻な不足**によって引き起こされた混乱は、可視性と柔軟性の必要性を示す最も劇的な例であると思われます。クラウド対応のサプライチェーン・プランニング・ソリューションを導入している企業は、このような変動にうまく対応し、出荷の遅れを予測し、代替サプライヤと連携することができます。OEMから部品サプライヤに至るまで、自動車関連企業は、リアルタイムデータ、一般的な出荷ルートでのグローバルビュー、AIがサポートする分析を利用して、リスクを管理し、混乱を軽減することができます。チップ不足による影響は2023年まで続くと予想されるため、今この技術に投資することで、潜在的な収益損失を抑制することができます。

## インフォアのモダンERPを選ぶ理由

### 容易な適応

- 財務・人事の枠に留まらないエンタープライズワークフロー機能を業界別のCloudSuite™ソリューションにバンドルして提供
- 複数のコアエンジンで業界固有の新しい機能をアジャイルに開発
- 迅速な実装を可能なImplementation Accelerators（IA）や、あらかじめ組み込まれたベストプラクティスで、アジャイルな導入プロセスを実現し、導入期間を短縮
- 膨大なコードベースが不要で、貴社のビジネスに必要なソフトウェアだけを利用可能
- ニーズの変化に応じて容量と機能を追加できる拡張性

### 業界に特化した機能

- サプライヤや顧客との連携、製品の設計、コンフィグレーションの連携など、クラス最高レベルのコラボレーション機能を提供
- 業界固有の要件の90%を標準機能あるいはコンフィグレーション設定で実現
- クラウド環境の継続的なアップグレードで常に最新の機能が提供され、必要に応じて利用することが可能
- 将来的な柔軟性、コスト、リスク管理を考慮して、最小限のカスタマイズで実装可能

### クラウドとテクノロジーのエコシステム

- マルチテナントのクラウドプラットフォーム上で、統合、ワークフロー、文脈に応じたBI、エクステンシビリティ（機能拡張）、IoT、AIの活用を実現
- 標準ベースのミドルウェアで、インフォアとサードパーティーのアプリ、IoTをAPI統合
- データ・アナリティクスのサービスでコンテキストに応じたエンタープライズレベルのインサイトを入手
- Amazon® Web Services (AWS®) のグローバルなクラウドインフラストラクチャの俊敏性、拡張性、セキュリティのメリットを享受

## モダンERPへの投資による最大の利益

イノベーションの最先端にいたい先進的な企業は、クラウドで展開される最新のERPシステムへの投資を進めています。生産性の向上とプロセスの改善は、混乱にはるかに勝ります。モダナイゼーションは、ビジネスに戦略的な影響を与えます。最新のERPシステムがもたらす大きなメリットをぜひ体験してください。

- **ユーザー利用率の向上**：従業員がERPシステムを使えなければ、ROI（投資収益率）を達成することはできません。最新のシステムは、よりユーザーフレンドリーで、従業員がデータを探し出して、意思決定プロセスにデータを活用できるように促進します。
- **ビジネスの意思決定の改善**：エンタープライズ・アナリティクスによって、サイロ化した業務データを接続し、全体的な結果やKPIを把握した上で、詳細な要因にドリルダウンできるようになります。モダンERPシステムがあれば、組織内の「アナリティクス意識」を高めて、データドリブンな意思決定を促進し、業務の有効性を改善することができます。組織のKPIと部門の目標を合致させれば、個々のチームや従業員は、自分たちの優先事項がビジネス全体のパフォーマンスにどのように影響するかを明確に把握できるようになります。
- **迅速なTime to Valueを実現**：ROIは、ビジネスの意思決定者にとって常に重要な指標です。モダンERPシステムは、ビジネス分析やシナリオプランニング、財務影響分析を通して、経営上の利害関係者とチームのより明確な意思疎通を支援します。現在の財務実績の推進要因を理解し、将来の成果をモデル化するツールを使うことによって、チームはより自信をもって意思決定できるようになり、経営幹部は社内リソースに賢明に投資していることを知った上で、チームへの支援を高めることができます。
- **人材の獲得と維持**：今日の自動車OEMとサプライヤの大きな課題は、長年にわたって「ガラパゴス的な」知識と製造技術を蓄積してきた従業員たちが退職することに加えて、新しい世代の労働者たちが製造業の仕事に就きたがらないことです。働き手がいなければ、企業は存続できません。新世代のデジタルネイティブたちは、ユーザーフレンドリーで、自分たちの好む働き方をサポートしてくれるテクノロジーを求めています。つまり、彼らが日常的に使用するアプリケーションの外観と操作性を再現し、即座にデータにアクセスして連携することが可能なソフトウェアです。多くのメーカーとサプライヤにとって、モダンERPシステムは、新世代の労働者を惹きつけるための重要な差別化要因になります。

- **縦割りのビジネスを解消して連携を強化**：近代的なプラットフォーム上で、業務分野の枠を超えてERP機能を拡張することによって、メーカーは部門横断的な連携を強化し、ワークフローと生産性を改善することができます。チーム間のコミュニケーションが改善し、部門横断的なデータを活用できるようになれば、サイクルタイムを短縮して、精度を高めることができます。ERPシステムに組み込まれているソーシャル機能を使えば、必要な時にどこでも仕事ができるデバイスを使って、地域や時差を超えて豊富な情報を共有することができます。
- **コラボレーションを促進**：最も影響力のあるERPシステムは、サプライヤや顧客と情報を交換するための「アウトサイドイン」要件をサポートしています。サプライチェーン、製品ライフサイクル、注文管理などのプロセスをネットワークでサポートすることで、サイクルタイムの短縮、精度の向上、ビジネス全体の柔軟性の向上を実現します。インコンテキストな意思決定のためのアナリティクスは、在庫レベル、リードタイム、需要予測などのサードパーティデータを考慮し、プランニング、スケジューリング、コストおよびリスクマネジメントを改善することができます。
- **主要業績評価指標の改善**：ERPの最新バージョンを使用するメーカーは、納期通りの完全納品率、在庫回転率、社内スケジュールの遵守率、運用コストの削減などの指標で、より大きな成果を挙げています。サプライチェーンの俊敏性と信頼性は、収益に直接影響を与えるパフォーマンス改善の一つです。このような節約は、価値創造までの時間を短縮し、有意義な投資収益率を提供することができます。
- **新たなテクノロジーの活用**：アナリティクス、モビリティ、クラウド、パートナーネットワーク、IoTは、現代の製造環境では必須の技術です。例えば、工場では、機械やプラント資産に組み込まれたセンサーから状態ベースのデータを収集することができます。このデータを高度なアナリティクスで分析すると、性能低下や故障の早期警告を検出することができます。このような事前警告があれば、交換部品の発注や作業のルート変更といった予防措置を講じることができます。

## モダンERPが継続的な成長を実現する

自動車業界は、変わり続けています。新しいビジネスモデル、新しい製品、新しい場所、新しい規制に対応する必要があります。しかし、古いテクノロジーでは新しい環境における貴社のビジネスをサポートできないかもしれません。モダンERPを提供するソフトウェアベンダーは、競争力強化のための新しいベストプラクティス（多くの場合は業界特化型）をソリューションに継続的に追加しています。こうしたソリューションを活用すれば、将来のビジネスの変化に合わせて成長をサポートする柔軟性を手に入れることができます。

[詳しくはこちら](#) ↗

**infor**

インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、170か国以上で65,000以上のお客様を支援しています。

Copyright© 2022 Infor. All rights reserved. 本文に記載の文字標章および 図形標章は、インフォアおよび/またはその関連会社ならびに子会社の商標および/または登録商標です。本文に記載のすべての他の商標は各所有者の所有物です。 [www.infor.com](http://www.infor.com).

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2611562-ja-JP-0122-2